

氏名	岩部明弘
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第3672号
学位授与の日付	平成14年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Concomitant Expression of Heparin-Binding Epidermal Growth Factor-Like Growth Factor mRNA and basic Fibroblast Growth Factor mRNA in Myocardial Infarction in Rats (ラット心筋梗塞におけるヘパリン結合性上皮成長因子様成長因子(HB-EGF)mRNAと塩基性線維芽細胞成長因子(bFGF)mRNAの同時発現)
論文審査委員	教授 大江透 教授 許南浩 教授 清水憲二

学位論文内容の要旨

HB-EGF は種々の細胞に対し分裂や走化性を促進し、血管新生などの、細胞の分裂や増殖が必要な病態において誘導される。また bFGF との相互作用が報告されている。本研究では、ラットの心筋梗塞部における HB-EGF mRNA と上皮成長因子受容体 (EGFR) mRNA の発現を bFGF mRNA と線維芽細胞成長因子受容体 (FGFR) mRNA の発現と比較検討した。ノーザンブロット法では、HB-EGF mRNA は梗塞後 6 時間で急速に発現が増加し 12 時間でピークを迎え、以後漸減した。これと平行して bFGF mRNA の発現を認めた。EGFR mRNA と FGFR mRNA の発現は梗塞後 2 日目、7 日目、14 日目と徐々に増加を認めた。冠動脈結紮後 2 時間の再灌流では HB-EGF mRNA と bFGF mRNA の発現は更に促進された。in situ ハイブリダイゼーション法では壊死組織周囲の梗塞部残存心筋に HB-EGF mRNA の発現を認めた。HB-EGF と bFGF が心筋梗塞後早期の炎症期に何らかの役割を果たしている可能性が示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、ラット心筋梗塞におけるヘパリン結合性上皮成長因子様成長因子 (HB-EGF)mRNA と塩基性線維芽細胞成長因子(bFGF)mRNA の発現を検討したものであるが、従来十分確立されていなかった心筋梗塞部における HB-EGF と bFGF の役割に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。